



学校だより

北海道小平高等養護学校

令和 8 年 7 月 24 日

第 2 号(通算121号)

温 寧 の 丘

多様な子どもたちの「深い学び」を目指して

北海道小平高等養護学校教頭

三 浦 智 子

2030 年度から実施予定の新しい学習指導要領に向けた議論が進んでいます。その中心に据えられているのが、①「主体的・対話的で深い学び」の実装 ②多様性の包摂 ③実現可能性の確保 の三つの方向性です。つまりは、「多様な子どもたちの『深い学び』を確かなものにする」と言えます。

特別支援学校において、この言葉は理念として掲げられるだけでなく、日々の教育活動の中で実感を伴って受け止められるものです。生徒たちは、一人ひとり異なる学び方、感じ方、表現の仕方を持っています。その多様性を包み込み、可能性を引き出す教育のあり方が、改めて問われていると感じています。

北海道が推進する「こどもまんなか」の考え方も、まさにこの方向性と重なります。子ども一人ひとりの声や姿を教育の中心に据え、その違いを尊重しながら成長を支えるという理念は、特別支援学校が長年大切にしてきた姿勢そのものです。例えば、言葉での表現が苦手な生徒が、写真やイラストを使うと自分の思いを驚くほど豊かに伝えてくれる場面があります。また、作業学習の時間に、道具の扱い方を仲間に丁寧に教える生徒の姿も見られます。こうした一人ひとりの「得意な入り口」から学びを深めていくことは、まさに「こどもまんなか」の実践であり、特別支援教育の強みでもあります。

現代社会は、変化の速度を増し、予測が難しい時代に突入しています。AI の進展、働き方の多様化、価値観の多様化——こうした環境の中で求められるのは、決められた答えを再現する力ではなく、自分らしい方法で課題に向き合い、周囲と協働しながら解決していく力です。特別支援学校の生徒たちは、日頃から自分に合った学び方を模索し、仲間と支え合いながら前進する経験を積み重ねています。この経験こそが、変化の激しい社会を生き抜くための「深い学び」の基盤になると私は考えています。

新学習指導要領の議論では、学びの個別最適化と協働の在り方、そして多様性の包摂が大きな柱となっています。これは特別支援学校にとって新しい挑戦であると同時に、これまで大切にしてきた教育の価値が社会全体に広がっていく流れでもあります。「こどもまんなか」の理念とともに、生徒一人ひとりの違いを尊重し、その違いを力として生かす学びの場をつくること——その実践を積み重ねてきた私たちだからこそ、次の学習指導要領の方向性に確かな手応えを感じています。

これからも、生徒の小さな変化や気づきを丁寧に受け止めながら、多様な学びが深まり続ける学校づくりを進めてまいります。生徒たちが夢に向かって自分らしく挑戦し、未来を切り拓いていけるよう、教職員一同、力を尽くしていきたいと思ひます。

Ⅰ 学期の様子

Ⅰ 学年

Ⅰ学年主任 松橋 圭子

真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで入学式を迎えた9人の仲間たち。4月当初は学校の授業や寄宿舎の生活についていくのに必死でした。毎日の体力づくりや作業学習、教科学習など、やらなければならないことや覚えることもたくさんありましたが、徐々に仲間同士助け合い、皆で協力しながら様々な学習に取り組むようになってきました。最近では、休み時間には楽しそうな会話や笑い声が聞かれるようになり、忙しくも充実した高校生活を過ごしています。

そんな9人ですが、最近少しずつ自分の話をしてくれるようになってきました。将来の希望する職業を明確に口にする人もいれば、今はまだどんな職業を選んだらよいか解らない、考え中、と伝えてくれる人もいます。これからも自分の思いや考えを言葉にして伝えることを大切にし、仲間と協力して取り組むⅠ学年を、最大級のエールで応援していきたいと思います。



2 学年

2学年主任 梶谷 美麗

新入生を迎えて先輩となり、後輩と関わる際には、丁寧に言葉を選びながら話したり、自分からコミュニケーションを取ろうとしたりと、戸惑いながらも、相手のことを考え、理解しながら関わろうとする様子が見られます。

5月、Ⅰ期現場実習では、留萌市内にある企業や事業所にて4日間行わせていただきました。それぞれの実習先にて職員の方々に仕事を教わりながら、自身が決めた目標のもと実習に励み、進路実現に向けての成果や課題を見つけることができた実習となりました。

6月には体育大会が開催され、生徒たちの日々の努力が実り、見事優勝することができました。キャプテンを中心として、学年で一致団結し向き合った結果だと思っています。

Ⅰ学期には多くの場面で驚くほど成長した姿を見せてくれた9名。2学期には、Ⅱ期現場実習があります。自身の課題を見つめ、夢に向かってさらに一歩前進し、また大きく成長した姿を見せてくれる実習となるよう、期待しています。



3 学年

3 学年主任 小堀 将宏

「高校生活最後の～」という言葉がさまざまな場面で聞かれる 1 年が始まりました。生徒たちは、これまで以上に時間の流れを速く感じながら、日々を過ごしていたことと思います。1 学期は、学校行事や進路に向けた取組など、慌ただしくも充実した毎日だったのではないのでしょうか。

中でも見学旅行は、実際にその場を訪れ、自分の目で見て、体験したからこそ得られた貴重な経験となりました。都会の人の多さや複雑な公共交通機関の乗り換え、初めて訪れる場所を情報端末を活用しながら自分たちで探索するなど、準備段階から本番まで、さまざまな困難を乗り越えました。その一つ一つの経験を通して、多くの力を身につけることができたと思います。

明日からは、高校生活最後の夏休みが始まります。前提実習に向けた準備や、自分の好きなことにじっくり取り組む時間も大切にしてほしいと思います。そして何より、これまで支えてくれた家族と過ごす時間を大切にしてください。この夏休みが実りある時間となることを願っています。



第 31 回体育大会～オビリンピックを振り返って

文化・保健体育部長 谷山 由宇

6 月 19 日（金）、「超越!!! この絆は誰にも負けない」のスローガンのもと、第 31 回体育大会を開催しました。生徒たちは「規律・協働・態度」を念頭に、学年を超えて練習から協力し合って励んできました。

今年は午前開催のため、競技間の迅速な行動が鍵となりましたが、生徒一人ひとりが「指示待ち」ではなく自発的に考え行動する素晴らしい姿が見られました。また、苫前商業高校の皆様や保護者の皆様にも競技にご参加いただき、生徒にとって貴重な交流と経験の場となりました。

結果は優勝 2 年生、2 位 1 年生、3 位 3 年生となりました。結果の良し悪しに関わらず、大切なのはそれまでの過程です。目標に向かって努力した経験を、今後の学校生活に活かしてほしいと思います。

真夏のような暑さの中、温かいご声援をくださった保護者の皆様に心より感謝申し上げます。



8 月の予定

24 日 開舎日

25 日 2 学期始業式

1 学年終日作業事前学習

26 日 二計測 (1 学年のみ)

27 日 2・3 学年終日作業 (~9 月 1 日)

9 月の予定

4 日 現場実習決意発表会

PTA 試食会

7 日 3 学年現場実習 (~10 月 2 日)

2 学年現場実習 (~9 月 18 日)

1 学年現場実習 (~9 月 10 日)

28 日 冬服期間開始